



BSR 通信

BSR 推進室ニュースレター第 29 号

平成 28 年 8 月 10 日

発行：大正大学 BSR 推進室

〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨 3-20-1

03-3918-7311 (代)

bsr_lab@mail.tais.ac.jp

臨床宗教師の養成課程設立に向けて

仏教学部 仏教学科 准教授 曾根 宣雄

臨床宗教師は、2011 年（平成 23）3 月に起きた東日本大震災を契機に養成されることとなった。被災後、宮城県宗教学者連絡協議会が主体となって「心の相談室」が設置され、多くの宗教者や医療関係者ボランティアが宗教宗派を超え、遺族のケアや相談にあたった。この「心の相談室」の活動を踏まえ、2012 年度、東北大学文学部に地元の宗教関係者らの寄付を受けた実践宗教学寄付講座が設立され、臨床宗教師が養成されることとなった。

臨床宗教師は、公共空間において布教を目的とするのではなく、医療・社会福祉等の専門職と連携しながら、宗教者として人々の苦悩や悲嘆に向きあい、ケア対象者の宗教性を尊重し、「スピリチュアルケア」と「宗教的ケア」を行うことを目指している。臨床宗教師倫理綱要には、

- ・個の尊厳を尊重する
- ・差別しない
- ・相手を先入観で見ない
- ・守秘義務の遵守
- ・押しつけをしない
- ・布教伝道を目的としない
- ・宗教的ケアの要望があったとし

ても、周囲への影響などに配慮して、慎重に対応する等の項目が示されている。

このように臨床宗教師は、布教伝道を行うのではなく、あくまでも対象者の苦悩や悲嘆に寄り添いながら「スピリチュアルケア」「宗教的ケア」を行うことを目的とする。その一方で臨床宗教師には、きちんとした自己の信仰を有した上で、他者の信仰（信仰の有無も含む）や死生観等の異なる価値観を認めるという基本的な立場が求められる。大正大学が天台宗・真言宗豊山派・真言宗智山派・浄土宗を設立母体とし、各宗派の僧侶養成を行っていることは、異なる価値観の共存ということを学ぶ上で最適な場であると考えられる。さらに社会福祉コース・哲学宗教コース・臨床心理学コースを有していることも、臨床宗教師を養成する上で大きなアドバンテージである。臨床宗教師の養成は時代の要請といえることができるのであり、開設に向けて関係する皆様と共に努力していきたい。

目次

- 1 頁：巻頭言
- 2 頁：研究ノート
- 3 頁：BSR トピックス
- 4 頁：BSR 図書室 / 今後の予定

研究ノート

地域資源としての寺院

～広域地域連携自治体協議会報告～

<平成 28 年度広域地域連携自治体協議会>

平成 28 年 7 月 9 日（土）、大正大学にて「平成 28 年度広域地域連携自治体協議会」が開催されました。これは、本学の地域構想研究所（以下、地構研）が主体となり、30 の連携自治体を招いて地方創生をともに考える情報提供・情報交換の場として開かれたものです。

現在、地構研では、

- ① 日本版 DMO
- ② 移住・雇用
- ③ 環境・自然
- ④ すがもプロジェクト
- ⑤ BSR（仏教者の社会的責任）推進

—の 5 分野の研究事業が進められています。

本協議会の内容、各発表者については地構研 HP (<http://chikouken.jp/topics/report/5888>) をご覧いただければと思いますが、ここでは、当日、⑤BSR（仏教者の社会的責任）推進として発表させていただいた「地域資源としての寺院」について紹介したいと思います。



【協議会の様子（提供：地域構想研究所）】

<最近お寺にいつ行きましたか？>

現在、日本国内には、寺院が約 7 万 7,000 か寺あり、僧侶が約 37 万 8,000 人いるといわれています（文化庁編『平成 26 年度版宗教年鑑』）。私たちがよく目にする、コンビニエンスストアが、全国に約 5 万 2,000 店（日本フランチャイズチェーン協会報告、平成 26 年 12 月）あることと比べても、寺院の方が圧倒的に多く存在している計算になります。

では、最近お寺に足を運んだのはいつでしょう？ お坊さんと言葉を交わしたのはいつでしょう？ この質問には多くの人が「ええっと…」と記憶をずいぶんさかのぼることになるかもしれません。コンビニには毎日のように行っている人も、お寺となるとそうそう足を運ぶ人もいないのではないのでしょうか。

もちろん、コンビニには、たんに食べ物や飲み物を買うだけでなく、公共料金の支払いができたり、コピーができたり、雑誌の最新刊がチェックできたりと、さまざまな利用方法があるからだということもできるでしょう。

逆にいえば、多くの人にとって、お寺は法要やお墓参りという「儀礼の場」としての認識しかないともいえます。したがって、気軽に門をくぐることは何やら憚られるという意識があるのかもしれない。

<寺院の潜在的役割>

静謐な祈りの場として寺院の持つ「聖性」はもちろん大切ですが、それだけでない価値が寺院にはあるでしょう。ここでは地域資源として寺院が担う役割を 2 つほど紹介したいと思います。

まずは、（1）コミュニティのみまもり機能です。

近年、厚生労働省が地域包括ケアを積極的に推進しています。これは、人生の最後まで住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるケアシステムの構築を目指すというもので、とりわけ、今後増加が見込まれる認知症高齢者の生活を支えるために重要視されています。

しかし、少子高齢化、核家族化、都市化が進む中で、家族や地域住民がケアの担い手として従前どおり機能しづらくなってきているのも事実です。またこれら地縁・血縁組織の衰退は、生活課題を発見する「場所」の縮小にもつながります。

実際、昨年度、私たちが参画した研究では、ケアの担い手の不在だけでなく、生活課題の発見自体が遅れてしまい困難事例化するケースが増えてきていることがわかっています（RISTEX「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」研究開発領域企画調査）。

各自治体では、新たな集いの場を作るべく様々な取り組みを行っているところもありますが、体制の不備、継続性などの

問題を抱えることも少なくありません。その点、多くの寺院ではすでに、観音講、詠唱講、写経会、団体参拝ツアーなど、広く檀信徒に向けた「集いの場」を有しています。これを援用することで、生活課題の早期発見をうながすことができるでしょう。

また、介護予防活動の場としても機能するはずで、とりわけ、福祉施設に行くことへの心理的バリアを持つ高齢者にとって、馴染みある寺院で同様の活動が行われていることを知れば、気軽な参加につながるかもしれません。

つづいて、(2) 災害時の避難所としての機能です。

東日本大震災後、東北三県太平洋沿岸部では 97 カ寺が避難所になり、そのうち、43 カ寺は 1 カ月以上避難所として使用されました（安藤徳明 2016「東日本大震災における寺院の避難所開設要因の定量的分析」『宗教と社会貢献』第 6 巻第 1 号）。

また、2014 年 7 月の調査では、95 自治体が、寺院を含む宗教施設（399 宗教施設）と災害協定を締結しています。さらに、明文化されていない協力関係まで含めれば、自治体数は 303 にのぼるといいます。これは全市区町村の約 16%にあたる数です（稲場圭信 2015「自治体と宗教施設との災害協定に関する調査報告」『宗教と社会貢献』第 5 巻第 1 号）。

ここから見てわかるように、すでに一定数の自治体は寺院を地域資源とみなしています。さらに、被災地では、行政からの避難所指定の有無にかかわらず地域住民が自然と集まり、自然発生的に避難所になったケースも多く耳にしました。これは、その地域住民にとってお寺は安心・安全な場所として認識されていたからでしょう。

＜BSR（仏教者の社会的責任）を進めるために＞

以上のように、寺院が持つ地域資源としての可能性は大きなものであることがうかがえます。観光の起源が巡礼や参拝であったことをふまえれば、観光資源としての寺院の役割もさらに付与されることでしょう。

しかし、社会が寺院を資源として一方的に見なすだけでなく、寺院側も地域の資源たるべくその力を蓄えておかねばなりません。その際、寺院として何か新しいことに取り組む必要はありませんが、これまでやってきたことがいかなる役割を持つことなのか、そういった視点でとらえ直すことは必要です。実はこれこそが、SR（社会的責任）構成概念のひとつ「説明責任」（自身の活動が外部に与える影響を説明すること）に該当するものです。さらにそこから、寺院を取り巻くさまざまなステークホルダー（利害関係者）への配慮も生まれてくることでしょう。

このように、社会と寺院、双方向からの協働によって、BSR はより実行性を増していくのではないのでしょうか。（T）



BSR トピックス

ガモコレ（巣鴨コレクション）開催！

7 月 17 日（日）本学 7 号館にてシニアのファッションイベント「ガモコレ（巣鴨コレクション）」が開催されました。巣鴨地区での開催は 6 回目となります。今年 4 月に地域創生学部を開設し、巣鴨地蔵通り商店街からの要請もあり本学が特別協賛して、会場となりました。

ガモコレは、「巣鴨から発信する、素敵なレディのニューファッション」をテーマに始まったシニアレディのファッションショーですが、「G／げんきに A／あかるく M／みんなが O／おしゃれ COLLE／コレクション」とコンセプトを拡大し巣鴨にとどまらず、会津若松、川越、銀座、神戸、そしてハワイでも開催されました。今回のガモコレでは、地域創生学部の有志、映像サークル 鴨台クリエイティブフィルム、ジャズ研究会

の学生が運営に携わり、ショーに出演しました。

併せて、「大正大学らしさを出して欲しい」という主催者の



要望により BSR 推進室間正が法衣をまとい 18 メートルのランウェイを歩きました。「普段あまり見る機会のない法衣姿を見てもらい、お坊さんを身近に感じてもらえれば・・・」という思いで出演しました。ご来場の皆さんには喜んでいただきましたが、同時に真言宗中興の祖 興教大師覚鑿が「密厳院発露懺悔文」の中で懺悔しているように、「形を沙門に比して信施を受く」ことのないよう、自らを律しなければいけないと思いました。（M）

BSR 図書室

ネルケ無方 著

仏教の冷たさ キリスト教の危うさ

(KKベストセラーズ 2016年、800円+税)



著者は牧師を祖父に持つ家庭に育ったドイツ人の禅僧です。著者は昨今の「仏教ブーム」を日本人が「私とは?」、「日本人とは?」というアイデンティティを仏教に求めているのではないかとし、その一方で「社内の公用語を英語にする」、「はっきりと自分の意見を言う」など「欧米の価値観」で仕事をしないといけない状況にあり、その「欧米の価値観」の根本にある「一神教」を勉強したいと思っている人が多いことも紹介しています。

その上で仏教とキリスト教の相違点と類似点を検証しながら、この2つの宗教の本質に迫ろうとしています。

そして「日本の僧侶が守るべきもの」や「日本仏教の新しい形を求めて」ということで著者が考える仏教のある

べき姿を提唱しています。

またエンゲージド・ブディズム（行動する仏教、社会をつくる仏教）の一つの形として、若い僧侶が宗派を超えて「仏教は日本社会や世界のために役に立つのか」という問題意識を共有し始めているとし、著者の答えは、日本人がワラビやゼンマイなどのアクの強い山菜を上手くアク抜きして美味しく食べていることを引き合いにだし、気になるニオイのない、アク抜きされた日本の、日本人の宗教観が、世界で問題になっている宗教の課題を解決できる、と結論付けています。そこまでは・・という意見もあるかもしれませんが、一神教が土台となっている文化の中で育ってきた著者には説得力があります。（M）

今後の予定

8月20日（土） 11時～

花会式（夏休み特別企画） 鴨台観音堂前

大正大学勤行式、プチ修行体験、怪談・お岩さん

13時～15時

お坊さんカフェ「僧話花」 3号館 1階

9月17日（土） 11時～12時

花会式（真言宗豊山派） 鴨台観音堂前

9時～13時

あさ市 南門 けやき広場

13時～15時

お坊さんカフェ「僧話花」 3号館 1階



巻頭言執筆者 紹介

曾根 宣雄（そね のぶお）

大正大学 仏教学部 仏教学科 准教授

佛教大学 文学部卒業、佛教大学大学院 文学研究科 修士課程修了（文学修士）、大正大学大学院 文学研究科 博士課程単位取得満期退学。

専門は浄土教の仏身論、法然浄土教。他にもターミナルケアを中心に、法然浄土教に基づく社会実践について研究している。

巻頭写真

夏空とさざえ堂（平成28年8月5日撮影）